



ごあいさつ

大釈迦本宗能忍寺は茨城県取手にある「単立宗派」と呼ばれる独立した宗派でございます。能忍寺はお釈迦様をご本尊とし、創建以来にわたりお釈迦様との結縁の場、また心の拠り所として幅広い信仰を得ております。信徒一門は第一に、釈迦を学ぶために妙法蓮華経から仏門へと入って行きます。諸説ありますが、釈迦の教えや修行の苦労をまとめたものが、南無妙法蓮華経と言われており、能忍寺では功德を積むための最初の書物と考えております。また、仏門へ入って間もない者でも南無妙法蓮華経以外の諸経を教養として学ぶことを推奨しております。能忍寺では、個の成長に重きをおいており、禅を実践し自己鍛錬に努め、身心を整えることを修行として課しております。禅の実践により己を見つめなおすことで本心に必要なことを理解することができ、それこそが課せられた使命であり諸仏からの教えなのです。人は皆教えを授かった上でこの世に生を受けております。それに気づくためのきっかけが禅なのです。ぜひ能忍寺にお越しください。

仏教のことわざ

「会うのは別れの始め」 (愛別離苦)

愛する人や物と別れる苦しみのこと。

お釈迦様は、この世に八種類の苦しみがあると説きました。どんな人間でも会えば必ず別れなければならないという「生者必滅、会者定離」は人生四苦八苦のうちの二つ。

また四苦八苦の「四苦」には生・老・病・死が含まれています。

これらの苦しみの原因は「煩惱」にあるとし、

お釈迦さまは、すべての原因があつて

結果が起こり、その結果が原因となり

また別の結果を生むと考えました。



能忍寺の歴史

時期不明 茨城県行方市にて建立。

昭和五十六年十月 法人化。

平成二十三年三月 東日本大震災で被災。建物と穂満物の大半を喪失。

半を喪失。

平成二十三年五月 現代表が住職および法人代表に就任。

令和三年三月 茨城県取手市に本尊移転で再建。

定期連載

お彼岸について

お彼岸とは春分の日と秋分の日を中心に年二回、仏さまやご先祖様を供養する期間のことをいいます。令和七年の春のお彼岸は春分の日である三月二十日の前後三日間(三月一七日～三月二三日)が期間となります。

実はお彼岸という行事は日本独自のものであることはご存じでしょうか。もともと仏教にはご先祖様を供養するといった考えはなかったものの、日本に古くからあった太陽への信仰、ご先祖様への思いが仏教と結びつき、定着していきました。

今回のお彼岸では、お墓やお仏壇のお掃除、ご先祖様へ手を合わせてみるなどしてみたいかがでしょうか。

はじめての仏教

お釈迦さまのご誕生

お釈迦さまは今から約二千五百年前、紀元前五～四世紀のインド大陸北部で生まれたと推定されています。父はシャークヤ国の王様で、「釈迦」はこの国名に由来します。母のマーヤー夫人は出産のための里帰りの際、花咲き誇るルンビニーでお釈迦さまを産みました。母の右脇から産まれたとされるお釈迦さまはすぐに七歩歩き、右手で天を、左手で地を指し、「天上天下唯我独尊(世界において私のみが尊い)」と口にしたと伝えられます。